



未来を夢見て

2020/4/27 No. 4

オンライン授業は実現可能か

～「ためしてみようオンライン」～

ここにきて「オンライン授業」の実現に向けての動きが加速化してきました。日曜日の河北新報には富谷市のオンライン授業の研修会の様子が掲載されていました。富谷市ではすでに児童生徒に端末教材のIDを配布している、とのこと、実現にむけて進んでいることが伝わってきます。また、本日の河北新報の社説には「子どもの学習支援」ということで、今後長期化した場合のオンラインを含めた私たち教員と民間の方々が協力した取り組みの必要性についてふれられています。

さて、本校では、臨時休校に入ってから本日が2回目の「(課題の)ポストイン」でした。先週教科書は保護者の皆様に受け取っていただいたものの、ノートも補助教材のドリルも渡せていなかった状況です。今回先生方に知恵を絞っていただいたのが、ノートやお便り、ドリルをまとめて渡しても大丈夫のようにビニル袋を用意し、その中に入れて各家庭に配付することです。オンラインのようにスマートではありませんが、受けとった保護者や児童の皆さんには、先生方の「気持ち」もきっと伝わったことと思います。ちょうど出かける前に中津川先生に袋を見せてもらいました。袋には名前のシールが添付してあり、中には真新しいノートとドリル、そして新学期に渡す予定だったたくさんのお便りが入っていました。ここまで準備していただくだけでも大変だったかと思いますが、さらに一軒一軒、回っていただくご苦労には、本当に頭が下がる思いです。

本日渡した課題は、予定では、5月7日(木)以降、学校再開の時に子どもたちに学校にもってきてもらう予定です。ただ、目下最大の課題は、本当にこの日に学校が再開できるかどうか、というところです。

この点、ここ数日、5者会でも話題になっています。

臨時休校が長期化するような場合に備えて、子どもたちの学習支援をいかに行うか、ということです。この点、本日大和町教育委員会からも単元ライブラリーの活用等について指示がありました。

早速、本校でも堀田先生がGoogleを活用した授業配信の可能性を提案してくれています。Googleはセキュリティも問題なく、さらに、Google Meetなどの機能を活用すると、双方向の通信、つまり対面での授業も可能です。ですから、例えば先生方が在宅しながら、オンラインで会議をすることも可能になります。

もちろん、実現にはいくつものハードルがあることは承知の上ですが、まず、私たちが使ってみてそのよさを実感することが何より大切です。そうです、歩きながら考える、の精神です。今日、先生方の机上には、堀田先生が作成した「ためしてみようオンライン」が配付されています。早速数名の先生方が「生徒」として参加してくださっています。本校でのオンライン学習を推進するうえでも、まず、私たち自身がオンラインでのやりとりに取り組んでみましょう。



(文責：手代木)